代 表 質 問 通 告 一 覧

(令和7年2月菊川市議会定例会)

1 市民ネット（質問者：西下 敦基 議員）（答弁者：市長・教育長）

① 未来に向けて市政方針を問う P 1

2 菊川ゆめ未来（質問者：黒田 茂 議員）（答弁者：市長・教育長）

① 菊川市の施政・施策について伺う P 8

3 みどり21（質問者：小林 博文 議員）（答弁者：市長・教育長）

① 令和7年度 菊川市のトリセツ P10

令和7年2月17日

菊川市長 長谷川 寛彦 様

菊川市議会議長 赤堀 博

代 表 質 問 に つ い て

令和7年2月菊川市議会定例会において、次の質問をする予定であるため、あらかじめ通知いたします。

会 派 名 : 市民ネット	
質 問 者 : 西 下 敦 基	
質問事項1 : 未来に向けて市政方針を問う	
<p>菊川市議会の会派：市民ネットは働く仲間の生活環境整備、まちづくりに積極的に関わる市民の育成・支援、子ども達が健やかに育ち、安心・安全で幸せな日常のある暮らしの充実を中心に活動し、例年市長への提言書も提出して参りました。令和6年11月に提言をした内容を主に代表質問をさせていただきます。</p> <p>現在、日本では内閣総理大臣の交代後の総選挙での与野党伯仲、アメリカでは大統領選挙でトランプ大統領が再選され、各国での戦争、紛争等、国内外の政治情勢は依然として不安定な要素が多い状況が続いています。経済面でも、景気も穏やかに回復傾向にあるとはいえ、中小企業の正規・非正規労働者の賃金は依然伸び悩んでおり、物価上昇に追いつけず、豊かな生活を実感できない状況にあります。</p> <p>これからの地方自治体は、財政面では、人口減少が進む中で、極力無駄を省き、財政の余白を作っていくことが求められます。そして一番のポイントは、市民との対話の機会を増やすこと、積極的な情報公開を進めることで市民への丁寧な説明責任を果たしていくことにあります。そうすることで、全てが納得するところまでいかなくても市民の市政への理解を進め、市政に興味を持ちまちづくりに積極的に関わる市民を育てていくことができます。</p> <p>人口減少対策はもとより、人口が減っていく中でどうやって豊かに幸せに暮らせるかの観点での行政運営に切り替えていく、公共インフラ、農業、障がい者・高齢者等の弱者支援、環境、子育て・教育、市民活動等の各場面で持続可能なまちづくりを積極的に進めていかななくてはなりません。</p> <p>地域資源を生かし、市民が持つ地域愛の力をより発揮できる環境づくりには、行政の市民に寄り添ったリーダーシップが必要不可欠です。ち</p>	<p>【答 弁 者】 市 長 教育長</p>

ようどいい規模のまち菊川市だからこそ、これまで積み重なってきた小さな課題こそへ目を向け、困りごとを丸ごと受け止める一人一人に寄り添った市政運営を行うことで市民にとってウェルビーイングなまちを目指すことができます。市民生活の不安を取り除き、菊川市で安心して安全に自分らしく穏やかに暮らしていける施策の充実を求め質問します。

1. 職員育成と意識改革について

市役所業務には連続性を求められる業務も多く、前例踏襲がよしとされる文化が未だに色濃く残っています。現場を見ず、市民活動の成果の数字のみを求め、それが行政の事業成果に加えられている事業も見受けられます。市民の活動による成果という部分を大切にしていかななくては市民協働は進んでいきません。行政事業は、成果効果の目標に対する実績を示すことが求められますが、過去の栄光や政策成果は終わったこととして、それを基に常に未来を考えていくことが必要です。行政職員の意識変革を進め、失敗を恐れず前向きな体質に変わること、市民意識も変わり、まちの空気が変わっていくことから、職員一人一人を大切に育てていくことが持続可能なまちづくりには必要不可欠となることから以下について質問します。

① 市職員の現状は、これまでの業務継続、日常業務で手一杯で各課人員不足が常態化しているところに加え、新しい制度改正や新機能へ対応するための二重の業務も加わって多忙化が解消される見通しが立たない状況と推測します。このような状況下であっても変化の速いこれまでと違う世相の中では、幅広い目線と即戦力、スピード感が求められています。自ら考え、調べ、行動し言葉で伝えるということを基本とした、自らの意志で動く、コミュニケーション能力の高い職員をいかに育てていくか、これからは、施策提案できる能力は企画以外の各課で重視されなくてはならないため、定型業務はできるだけDX化を急ぎ、アイデア出しや、小さな声を聴くことに職員能力を生かせる環境づくりが必要と考えるが見解を伺います。

② 菊川市の課題を我が事として主体的に取り組むこと、まちへ出向き市民と対話を重ねる意識が高い職員をいかに増やしていくかがポイントであり、やる気のある主体的に取り組む職員に、実績に見合った評価のできる評価システムが必要となります。上司は、部下の成長を目的に行われる課題や悩み、現状について部下に遠慮なく話す場を作る1対1のミーティング「1 on 1 ミーティング」の導入で一人一人の課題を解決し、得意分野を発見し、モチベーションをあげていくことを丁寧に行う必要性があります。加えて、職員を守るため女性特有の

悩みへの対応、心のケアはもちろん、カスタマーハラスメント、パワーハラスメント等様々なハラスメント対策も益々重要となってきますが見解を伺います。

- ③ 住民のニーズの多様化による業務量の増加、働き方改革による職員の人手不足、配置換えによる学び直しが必要になることなど職員の負担は大きい物と感じられています。このような課題に対応する手段としてデジタル庁が運営する「デジタル改革共創プラットフォーム」の活用は考えられないか伺います。これは、業務デジタル化に関する情報交換を行う自治体職員、政府職員限定のオンラインコミュニティであり、小規模自治体ほど情報部門の人材不足は顕著となっている中、全国から約8,700人の職員が集い、ノウハウや解決策を提供し合っています。システム標準化・基幹業務、ガバメントクラウド、デジタル田園都市国家構想などの政策テーマごとにグループ化されていることや、防災、消防、コミュニティ、交通、財政、上下水道など多様な部門の職員の参加もあるそうです。集合知の有効な活用だけでなく、所属や役職を超えて全国からもらえるヒントや応援が支えになりモチベーションアップにもつながることとなり有用性は高いと考えています。

2. 子どもがいきいき育つまちについて

出産前から成人までの子育て問題に関して、今まで以上に保護者および子ども達の声に耳を傾け、できない理由を先にあげるのではなく小さな困りごとをどうしたら解決できるかの対応を丁寧に行うことで、更に子育てしやすくなり、～子育てするなら菊川で～「子育て世代に選ばれるまち」となっていくと思います。出生数が減少する中、きくがわの子ども達にしっかりと投資をしていくことは菊川市の未来への影響が大変大きいことから、無駄を省き教育予算を補強していくことはこれからの最大の課題と考えております。このような観点を踏まえ以下について質問します。

- ① こども家庭センターの機能を充実し、現状を把握するための調査や支援の拡充およびサービスにつながりやすい体制の整備の推進することで子どもの発達の問題、貧困およびヤングケアラーの問題解決にもつながると考えております。運営を開始し相談件数が大幅に伸びているという報告を受けており子育て支援の充実につながっているのではないかと推測致しますが、現状の運営状況と今後の取り組みについて伺います。
- ② ほとんどが民間となる幼保施設については、少子化による乳幼児の減少対策、公立と私立の運営状況の平準化、保育士の処遇改善、給食

センターの利用等これまで課題となっている点をこの機会に見直し、安心してお子さんを預けられる体制づくりを積極的に行う必要を感じており、取組み状況および今後の展望について伺います。

- ③ 小中学校の学舎を基本としたコミュニティ・スクールの推進を施策の中心とし充実されることで、地域と学校が一体となり、子ども達を中心とした持続可能なまちづくりを進めることにより、様々な地域課題を解決することとなります。例えば、地区自治会・コミュニティ協議会等の担い手不足、教職員の働き方改革、部活動の地域展開、生涯学習の推進、地域の防災対策等の解決に繋がります。そのためには学校教育課のみが担当するのではなく地域支援課・社会教育課はもちろん様々な担当課が連携することが必要となりますが、連携体制及び取組み状況について伺います。また、学校を拠点としていくために、学校施設の今後の在り方を早急に検討し、防災拠点としての対策（体育館の断熱・エアコン設置やライフライン寸断時の設備設置）も勧めなくてはなりませんが見解を伺います。
- ④ 給食費の無償化の問題について、国における議論が進み、支援がなされるべきと考えますが、保護者にとっては大変要望の強い物と感じております。全体を無償化するには大きな財政の負担がある中で、湖西市の事例の様に中学校を先行して無償化していく事など検討ができないか伺います。

3. 健康で元気に暮らせるまちについて

「団塊の世代」の方が75歳以上となり、超高齢化社会を迎え、2025年問題と言われる時代となります。社会保障費の増大や、各種分野の人手不足など日本経済や社会に大きな影響を及ぼすとされておりますが、高齢者だけでなく各種の世代においても健康で元気に暮らせるまちづくりは重要な施策の一つであり、さらに推進がなされるよう以下質問します。

- ① 幸福実感の高いまち「誰もが夢叶う 幸せ創生都市」菊川「」を目指すべきまちのイメージとして推進していく事が示されており、次期総合計画の策定において幸福実感度の観点やウェルビーイング指標の活用の取り組み状況や分析結果、および活かされた点について伺います。また、県においても幸福実感日本一を目指しており連携をしていくことも必要と考えますが見解を伺います。
- ② 孤独の解消、やりがいや役割のある生活、時間に余裕のあることなどで幸福実感が向上していくといわれております。健康づくりのためのスポーツの推進、認知症や介護予防等今後において、住民と共に考えて共有し参画を促して幸福実感の向上に向けてまちづくりを行っ

ていく必要があると考えていますが見解を伺います。

- ③ 「市民一人ひとりが心豊かで、充実した人生を送ることができる社会教育の推進」の方針があり、今後は人生100年時代を迎えようとしております。現在行われている各種講座や文化祭の取り組みのほかに、人生を豊かにしていくための定期的な開催される市民大学の検討ができないか見解を伺います。

4. 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまちについて

菊川市は日本のほぼ真ん中に位置し、気候は温暖で住みやすく、交通アクセスも良好であり、駅北をはじめ土地開発にもポテンシャルが高い、未来に可能性のあるまちとなっております。人口は縮小をしていく傾向となっている中ではありますが、活力を高め持続可能なまちづくりをしていくことが求められており、各種の取組について以下質問します。

- ① 当市においても業種・規模など様々な企業が活動を行っております。社会情勢などによる多種多様な課題が考えられることから、相談対応から必要な支援制度の充実を図ることや、物価高騰・人材不足・CO2削減などへの助言を積極的に行う必要があると考えるが見解を伺います。
- ② 産業支援センター「E n G A W A」について、従来の企業支援に加え、スタートアップ支援、農業への経営支援、コワーキングスペースの活用やビジネスコンテストなどの新たな切り口での取り組みが注目されております。現状における成果や課題、今後の展望について伺います。
- ③ 働く方たちの環境整備や社会貢献を進める会社へ認定や表彰を行い、さらにはインセンティブを与えていくような制度の実施を進めることで市内企業の発展に繋がると考えますが見解を伺います。また、産業振興について協議する場、中小企業振興会議へ労働団体代表者の参加を加え、多様な意見を取り入れる必要性を感じているが見解を伺います。
- ④ 菊川駅南北自由通路整備事業、菊川駅北整備構想にも、市民、市内事業者等の意見を反映し、今後の菊川市の発展に大きく寄与する事業であるため行政が積極的にリードしていくことが求められますが見解を伺います。
- ⑤ 農業について、全般としての地産地消の推進、深蒸し菊川茶GI登録の更なる有効活用、高収益につながる輸出に向けた有機茶・抹茶の推進、環境と農業を繋げたJクレジットの活用等新たな取り組みを推進し、特に農業については現場へ出て農業者の意見を聴いていくこと

で継続経営が可能となる体制づくりの支援に繋がると考えますが見解を伺います。また、デジタルの活用および地球温暖化への対応についても伺います。

- ⑥ 農業、商業、観光、地域支援等において、更に事業を活性化するためには外部人材の活用が必要であることから、目的をはっきりと定めた地域おこし協力隊の活用を進められる庁内体制を整え、前向きに活動をする協力隊員を積極的に迎えていく必要があると考えますが見解を伺います。

5. 快適な環境で安心して暮らせるまちについて

防災・減災について、公助には限界があり、自助・共助の取組もまだ十分とは言えない状況です。現在、大きな災害が発生し危機意識が高まったタイミングであり、時期を逃さず対策を講じていく必要があります。机上の数字を整えた防災対策でなく実際に被災した場合に即効力を発する自分事の防災対策を市民と一体となって進める必要があることや、市民にとっては日々の暮らしが安全・安心できることがウェルビーイングの向上にも資すると考えており、以下について質問します。

- ① こども、学生から女性、お年寄りまで様々な住民が参加する避難所運営訓練、要支援者の個別避難計画に沿った避難訓練、幼保施設・小中学校を含む公共施設の災害時のトイレ対策、各家庭での備蓄の推進、インフラの災害復旧など不足している部分を迅速且つ丁寧に進める必要があると考えますが見解を伺います。
- ② 各地での災害の被災者対応を見る中で、仮設住宅を設置するにあたり場所の確保の問題がありました。また、別の観点として企業誘致のためにはすぐに利用できる場所が望まれていることもあります。このような問題に対し事前に有用な場所の土地の開発を行い、災害時に利用できるスペースの確保及び企業誘致用地としての事前開発の検討について伺います。
- ③ 県警が2024年の犯罪統計を公表し、警察が認知した刑法犯は1万6,339件、2年連続で増加しているとの報道があり、空き家を狙った窃盗は前年の3倍超と増えているようです。闇バイトや物価高などによる影響ではないかと推測しています。市民の方からも不安の声を伺っており、対応についての見解を伺います。
- ④ 環境資源ギャラリーの建替え計画が進行する中、ごみの外部搬出というリスクを伴うこととなっています。今後の持続可能な社会の実現が求められる中で注目を浴びている資源を無駄にせず循環させる「サーキュラーエコノミー」という新しい経済のシステムがあります。3Rにおける取り組みだけでは、昨今の資源の需要拡大には追いつけな

いため、廃棄物自体を生み出さない新しい経済活動の形で「サーキュラーエコノミー」の考え方を取り入れていく必要があると考えますが見解を伺います。

6. まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち

今後改定される都市計画マスタープラン及び公共施設マネジメントは、長期財政計画や人口減少問題、公共交通のあり方を含め市民とともに検討を行っていかねばならない大きな課題です。市政の見える化と市民参加促進による市政への市民意見の反映により、まちづくりに希望を見出す市民を増やし、市民の力を生かせるまちづくりの推進がなされていくことを願い以下質問します。

- ① 市民協働センターは、全ての登録団体の交流及び活動支援を積極的に行い、行政から予算のつく委託事業については、登録団体、外部団体に情報提供をし、事業を担える組織を育成していく必要があると考えますが見解を伺います。
- ② 菊川市子ども・わかもの参画宣言が制定され、今後のまちづくりには若い世代を社会形成の主体として位置づけていくことが必要であることから、中学生以上の全住民に対してまちの課題についてのアンケート調査を実施し、各地域の課題を把握する地域カルテを作成、そこで明らかになった課題に対して、地域で何ができるかを住民同士で検討を進めることで各地域にあった活動形態が醸成されていくと考えますが見解を伺います。また、地区センターに定年延長の職員を数カ所配置し、手続きの補助等を行い市民とのパイプ役となることで行政が市民に寄り添い、お互いの壁を低くすることに繋がり、課題解決への近道となると考えますが見解を伺います。
- ③ 都市計画マスタープランについて、前回では令和7年度から8年度にかけて見直しを予定しているとの答弁がありました。見直しについての市民意見の取り入れの手法や、どのような観点を重視して取組みがされるのか伺います。

会 派 名 : 菊川ゆめ未来	
質 問 者 : 黒 田 茂	
質問事項 1 : 菊川市の施政・施策について伺う	
<p>【質問要旨】</p> <p>令和7年度施政方針に関連し代表質問させていただきます。</p> <p>先ず、施政方針に御座いますように、人口減少から起こる人口課題が重要な課題と捉えられている点、新たな挑戦にも積極的に取り組むという力強い宣言のもと、更に五つの行政運営の方針を受けての質問となります。</p> <p>1つ目に 切れ目ない子育て支援の充実について伺います。 小中学校の給食費に対し物価高騰支援策が本年度予算に組み込まれています。 大変スピード感のある対応と思います。 我々会派として小中学校の給食費完全無償化が実現されることを望んでいます。 2024年6月12日の日本経済新聞によりますと全国自治体の3割が2023年度時点で公立小中学校の給食を無償化している事が文部科学省の調査で分かったと報道されております。 給食費の無償化は世の中の流れ、子育て世代への支援、定住人口促進に繋がる施策の一つと捉えて頂きたく存じます。 財政厳しい折とは存じますが、給食費無償化に向けた検討を開始していただけるかを伺います。</p> <p>2つ目に 災害に備えた体制の充実について伺います。 自助・共助・公助の一体化として備蓄食・災害時必要物資を各自治会に数カ所の拠点をつくる事が必要であると思います。 人口減少に伴い市内に多くの空き家が有ることは周知の事実でございます。 空き家の状況にもよりますが、市が主導で空き家を備蓄倉庫化し自治会単位で管理する空き家備蓄倉庫化することが考えられます。 災害発生時において協定先から物資が届く準備は整っているとは思いますが、自助・共助・公助の日常からの備えが大切であり、市民の皆様の安心感に繋がるものと確信します。 空き家の困りごとと災害時の食料・物資の不安ごとを掛け合わせる事で</p>	<p>【答 弁 者】 市 長 教育長</p>

安心に変える事が出来ると思います。命にかかわる防災は待ったなしで有ります。

市内空き家状況を把握し、空き家を備蓄倉庫化に繋げる検討を開始していただけるかを伺います。

3つ目に

誰もが健康で生き生き元気に輝けるまち・健康づくり事業に繋がることについて伺います。

菊川市には公共のプール・温浴施設がありません。

両施設ともに健康寿命を意識した施設として必要不可欠と思います。更に教育面に目を向けると、全国的に学校での水泳授業での熱中症やプールの老朽化などの問題で水泳授業が見直しされている中、更には部活動の地域移行に伴い、将来にわたり絶対的に必要な施設と確信しております。

他市町には当たり前のようにある公共のプール・温浴施設が菊川市にはありません。

プール及び温浴施設は健康・教育・はじめ多岐にわたり菊川市にとって必要なハード面で有ると思いますが、市内に不足している施設の現状において必要性をお感じになられますでしょうか。

その上で、施設建設の検討に入らご予定は御座いますか伺います。

4つ目に

市所有の建物設備について質問いたします。

市内には多くの市所有の建物があります。今回は菊川文化会館アエルについて質問いたします。

アエルは市民にとってなくてはならない施設であり、市外からも多くの方が来館されております。

そのような中、開館からまもなく33年が経過しようとしております。建物を東側の裏手から見ると塗装もはがれ、見るも無残な寒々とした光景であります。

老朽化に伴う修繕費やその他、維持管理に要する指定管理料が市の財政を圧迫していないでしょうか。

急激な人口減少の今、財政しかり耐用年数も含め、持続可能な施設であるのかを検証していただきたいと思いますが見解・方針を伺います。

以上、4つの提言を登壇での質問とさせていただきます。

会 派 名 : みどり 2 1	
質 問 者 : 小 林 博 文	
質問事項 1 : 令和 7 年度 菊川市のトリセツ	
<p>新たな顔ぶれでスタートする、令和 7 年 2 月菊川市議会定例会開催にあたり、新体制の「会派みどり 2 1」を代表して質問いたします。</p> <p>近年、世界情勢はめまぐるしく変化し、複雑化、多様化しています。そんな世界の出来事が I C T (情報通信技術) の発達により、よりスピーディーに、より身近なものとなり、政治や経済にいち早く影響を与える状況となっています。そのようなグローバル化が進む中、持続可能な菊川市を未来ある子どもたちに引き継ぐため、市民の皆様は菊川市の将来を就任 2 期目となる長谷川市長に託しました。同じくその将来像に対する判断と監視役として私たち 17 名の議員が選ばれ、議会が組織されました。お金の使い方のみならず、もっとすみやすく、もっと楽しいまちにしたいというソフト面でのまちづくりにも、それぞれが市民の皆様の負託に答えていかなくてはなりません。今後、この議事堂や各会議室等で行われる代表者質問や一般質問、議案審査における質疑など、お互いが近づきすぎず離れすぎず、適度な距離感をもって是是非非での議論を交わしながら合意形成を図っていきたいと思います。以前私はこの壇上で、一般質問は執行部と議員や議会とのベクトル合わせと表現しました。代表質問を含め、矢印の方向が反対の方向に近い時は、慎重にゆっくりと事柄を進め、矢印が同じ方向に向いているのならば一気に進める、そのような議会運営を会派みどり 2 1 が中心となって推し進めてまいります。</p> <p>さて、令和 7 年当初の経済見通しとしては、コロナ禍から脱却し、エネルギーや食料品をはじめとした物価高騰の影響はあるものの経済状況は少しずつ上向いていると推察します。菊川市の令和 7 年度一般会計当初予算も前年度比、3 億 2 千 9 百万円 (+1.4%) 増と、過去最大で計上されています。増加傾向にある扶助費、人件費等の義務的経費にしっかりと対応しつつ、菊川市の未来に向け安定的な財政運営に繋げるための投資的経費も積極的に組み入れられています。また、その財源も将来の負担をできる限り少なくする起債や補助率のより高い国県の支出金が活用されています。現状を見据え、将来に向け何が必要かを的確に判断していかなくてはなりません。</p> <p>翻って、令和 7 年度施政方針に目を向けますと、人口課題に対し緩和策と適応策の両面での対応、自然災害への対応として予防措置及び脱炭素社会をはじめとした持続可能なまちづくりを念頭に市政運営を行っていくとあります。何れも、どこを無くしたり減らしたりするのか、どこへ重心を置くのか、いわゆる、選択と集中が議論の対象となってきます。それらを踏まえ、市政運営の基本的な考え方と取組の各項目に沿って、以下質問いたします。</p> <p>(質問 1) 安全で安心して暮らし続けられるまち について</p>	<p>【答 弁 者】 市 長 教育長</p>

1-1 防災機能の強化として市役所本庁舎敷地一体の整備を進めるにあたって、既存状況下ではいくつかの課題があります。進入路においては信号機のある南側入口からの通路は幅が狭く、特に菊川文庫北側のカーブなどでは車のすれ違いが困難な状況です。また、町部地区センター跡地の仮駐車場と現在ある駐車場との高低差を解消しなければ一体の整備は実現しません。今回のタイミングで改善することはできないのか伺います。

1-2 黒沢川が特定都市河川の指定を受けたことにより、流域治水の改善を進めるうえでのメリットはどのようなものがあるのか伺います。また、流域水害対策計画は、どのような関係機関と連携し、具体的な対策はどのようなものを考え、いつまでに策定するのか伺います。

1-3 災害時の避難所運営等に女性目線の考え方を取り入れたり、女性が活躍する場を提供したりすることが災害対応における重要な要素であることは言うまでもありません。防災対応への女性の参画にあたり、組織へ女性を取り入れることが第一歩と考えますが、各地区自治会や防災組織に対して、女性割合を上げる啓発・啓蒙活動をどのように実施していくのか伺います。

1-4 幹線道路整備における、小松洗橋の架け替え完成時期は何時か、工事にあたって通行止めとなる期間はどの程度あるのか伺います。また、掛川浜岡線バイパスの南側の工事完成予定は何時頃を予定しているのか、さらに北側、西方地区を進めていく中で、掛川市や静岡県と協議を行う際、菊川市として望むことにはどのようなものがあるのか伺います。

1-5 道路環境の整備にもユニバーサルデザインの考え方を取り入れることが重要です。例えば、障害のある方や高齢者、小さなお子様などすべての方に優しい歩道整備に取り組んでいただくこと等が必要と考えます。段差の解消や歩道幅を広くして分離した通行帯の整備を進めるなど、誰にも優しい道路環境整備への考えを伺います。

(質問2) 持続可能な産業モデルで未来を創るまち について

2-1 農業分野で、作物転換にあたり、優良農地の確保・保全と荒廃農地の解消を挙げています。昔からある茶畑特有の傾斜のきつい部分は農地から除外していくことも必要と考えますが見解を伺います。また、レモンへの作物転換や、荒廃茶園の茶葉を利用した商品の製造開発への実証実験を進めるのにあたり、将来の担い手としてどのような方を想定しているのか伺います。

2-2 連携協定を締結した事業者と農業DXを推進していく際、どの工程においてデジタルを活用するのか伺います。また、新たな工程での取り組みにも挑戦する考えはあるのか伺います。

2-3 ECサイトの専用ページのカスタマイズやデータ分析を行う組織はどのようなものを想定しているのか伺います。また、令和6年度に実施したビジネスコンテストの受賞者とどのような連携を考え

ているのか、令和7年度もビジネスコンテストを実施するとありますが、受賞者と連携する等の対応へのキャパシティーに問題はないか伺います。

2-4 企業誘致で工業用地確保に向けた開発候補地については早急に進めるべきと考えますが、見解を伺います。また、菊川市の立地の強みを活かし、誘致対象としている業種等を想定しているのか伺います。

(質問3) 誰もが健康で生き生き元気に輝けるまち について

3-1 医療分野における、予防としての特定健診や人間ドックなどの受診率の向上に向けた取り組みをさらに進めるべきと考えます。また、介護分野の予防として健康体操やサロンの参加者を増やすなど、どちらも予防に対してさらに推し進める必要があると考えますが、見解を伺います。

3-2 帯状疱疹ワクチンの予防接種について、令和7年度からの内容と、菊川市独自の内容について具体的に詳細に説明を求めます。

3-3 菊川市立総合病院の整形外科や赤土クリニックの家庭医療などは本市の医療の強みと捉え、市内のみならず市外にも情報発信をして患者さんを呼び込むなど対応を図っていく必要があると考えますが見解を伺います。一方、本市で不足していると思われる分野を、どう克服していくかについても考えを伺います。

3-4 地域支援体制について、分野を超えた包括的支援体制の構築に取り組んでいくとしていますが、一体的な窓口を設ける等の対応を想定しているのか伺います。また、このような体制の構築には民生委員や自治会、さらには警察や児童相談所などとの連携も必要と考えますが見解を伺います。

(質問4) 笑顔を育む希望と安心があふれるまち について

4-1 学校の未来を考える会のめざすゴールは何か伺います。また、それらをいつまでに決定し、地域と令和8年度から行う協議の内容とは何かも伺います。

4-2 中学校の部活動の地域移行について令和10年8月までに完了とのことだが、現在把握している課題はあるか伺います。

(質問5) 可能性を引き出す夢あふれるまち について

5-1 市民、若者、事業者などによる協働で駅周辺の賑わい創出については、これまでの構想から計画を策定し、市民の皆様や議会へ示すべきと考えますが見解を伺います。駅舎完成と共に南北ロータリーへ構想の実現を図るのには今示すべきと考えますが見解を伺います。

5-2 報道などによると駅から離れた地域の皆様には、この駅北整備構想や駅周辺の賑わい創出への理解、関心が薄いとの見方があります。これらの地域の皆様に、治水対策と同様に市の重要な事業である旨、どのように関心を高め、理解を求めていくのか見解を伺います。

5-3 わかもののアイデアを伸ばし実現を図るためには、そのような雰囲気醸し出す空間が必要ではないかと考えます。現在の東館きくろの2階スペースは正にそのために創られたと思いますが、全体的なエリアとして活かされていないと感じます。市民協働センターと新たに確保するユースワーカーと連携を図りアイデアを創出する空間づくりが必要と考えますが見解を伺います。

(質問6) 新たな発想と共感により実効性を高めるまち について

6-1 新たな発想を引き出すためには、市内庁舎内にとどまらず、より多くの方々と意見交換を行ったり、学んだりすることが必要不可欠と考えます。市長が常々発する現場主義への職員対応について、改めて見解を伺います。

6-2 より多くの共感を得るためには、発信した情報に対して、幅広く市民の皆様から意見を伺う「受信」の構築にも挑むべきと考えます。どのように市民の皆様の意見聴取を行うか伺います。

以上、菊川市をさらに前へ！住みたいまち菊川市！！の実現にむけ、市長、教育長の見解を伺いたく、会派 みどり21を代表して質問いたします。